

30年4月分 製材工場の荷動き・価格先行き動向調査 1

1. 調査実施期間 平成30年 4月1日～ 30年 4月10日

2. 調査実施方法

全国の国産材製材工場に対し、アンケート調査票を送受することにより実施した。
4月分の回答企業数は16社である。

3. 判断指数の算出方法

各調査項目について以下の方法でウェイト・ディフュージョン・インデックスを算出した。

Weight.D.I.(ウェイト・ディフュージョン・インデックス)={(「増加」の評価を行った回答の割合)×2+(「やや増加」の評価を行った回答の割合)-(「減少」の評価を行った回答の割合)×2-(「やや減少」の評価を行った回答の割合)}÷2

したがって、この割合がゼロの場合はその増加と減少が等しいことを示し、プラスになるほど増加が多く、逆にマイナスになるほど減少が多いことを示す。

4. 調査結果の概要

ア. 国産材

(1) 製材用原木荷動き動向 Weight. D. I.

品 目		30/4月	5月	6月
入荷動向	スギ	20.0	20.0	5.0
	ヒノキ	12.5	6.3	12.5
	カラマツ	△ 100.0	△ 50.0	△ 50.0
	トドマツ	△ 75.0	△ 25.0	0.0
消費動向	スギ	10.0	15.0	10.0
	ヒノキ	18.8	25.0	31.3
	カラマツ	0.0	0.0	0.0
	トドマツ	△ 25.0	0.0	0.0
在庫動向	スギ	12.5	0.0	△ 6.3
	ヒノキ	14.3	7.1	0.0
	カラマツ	△ 100.0	△ 50.0	△ 50.0
	トドマツ	△ 75.0	△ 25.0	0.0

・スギ、ヒノキ製材用原木の入荷動向は3カ月連続増加。カラマツは3カ月連続減少。トドマツは4月、5月の減少から6月は横ばいに。

・スギ、ヒノキの消費動向は3カ月連続増加。カラマツは3カ月連続横ばい推移。トドマツは4月の減少から5月、6月は増加に。

・スギの在庫動向は4月の増加から5月は横ばい、6月は減少に。ヒノキは4月、5月の増加から6月は横ばいに。カラマツは3カ月連続減少。トドマツは4月、5月の減少から6月は横ばいに。

(2) 製材原木価格動向 Weight. D. I.

品 目	30/4月	5月	6月
スギ	△ 15.0	△ 10.0	△ 10.0
ヒノキ	△ 8.3	△ 8.3	△ 8.3
カラマツ	50.0	50.0	50.0
トドマツ	50.0	0.0	0.0

・スギ、ヒノキ製材用原木の価格動向は弱保合。
・カラマツは強保合。
・トドマツは保合。

モニターからのコメント

'(原木荷動き)

・今までの入荷待ちではダメなので、積極的に立木を自己調達し造林を開始。林産業界の需要に对应できない供給現状に対しては、伐期に達している山が大半を占める現在では、まだ間伐主体であること自体に違和感を覚える。製材受注は堅調に推移している。消費量と入荷量が同量となっており、在庫は少ない(北海道)。

・トドマツは厳しい状況変わらず。春山入山規制。工場の土場在庫1週間、山土場の在庫3週間。6月以降、国有林の出材増えれば解消か。消費は原木在庫に合わせ生産調整(北海道)。

・スギ、ヒノキともに順調な入荷状況にある(東北)。

・スギ伐採増で入荷やや増加(関東)。

・入荷はほぼ横ばいで推移すると思われるが、合板メーカーがスギ丸太が無いと言ってるので、造材が変わるかもしれないので心配だ。消費は4～5月は横ばい。6月から消費上げる。気温にもよるが、材の品質低下を防ぐため6月には在庫を減らす(中国)。

・スギ、ヒノキとも原木入荷通常ペース。製品市場の荷動き良くないが、プレカットはますますである(中国)。

・ヒノキは順調に入荷しているが、相変わらずスギ3m柱口(18-20, 14-16)は少ないまま。4月には多少増加する見込み。消費より入荷が多かった在庫はやや増加。伐採時期の良い丸太があるうちに購入した(中国)。

・設備増強により5月以降製材量が増加する見通し(中国)。

〒100-0001 東京都千代田区千代田1-1-1 株式会社 国土交通省 国土政策課 林業部 林業課 (100)

(原木価格)

- ・遠方集荷や競合によりコストアップとなっている（北海道）。
- ・3月から1,000円値上げ。生産できなくなるため、やむを得ずバイオマス、合板との取り合い（北海道）。
- ・スギ丸太はやや下落予想（関東）。
- ・5月以降秋に向けて上昇する見込み。為替が動くと様相が変わるかもしれない（中国）。
- ・スギ、ヒノキとも価格は比較的落ち着いている（中国）。
- ・出材量増加に伴い丸太単価は安定化（中国）。
- ・大量出荷のためやや下落気味。500～1,000円/m³

30年4月分 製材工場の荷動き・価格先行き動向調査 2

(3) 製材品荷動き動向 Weight. D. I.

品目		30/4月	5月	6月
生産動向	スギ	20.0	15.0	15.0
	ヒノキ	25.0	31.3	37.5
	カラマツ	0.0	0.0	0.0
	トドマツ	△ 25.0	0.0	25.0
出荷動向	スギ	15.0	25.0	10.0
	ヒノキ	12.5	31.3	31.3
	カラマツ	0.0	0.0	0.0
	トドマツ	△ 25.0	0.0	0.0
在庫動向	スギ	△ 5.0	0.0	0.0
	ヒノキ	0.0	6.3	6.3
	カラマツ	—	—	—
	トドマツ	△ 50.0	0.0	0.0

・スギ、ヒノキ製材品の生産動向は3カ月連続増加。カラマツは3カ月連続横ばい推移。トドマツは4月の減少から5月は横ばい、6月は増加に。

・スギ、ヒノキ製材品の消費動向は3カ月連続増加。カラマツは3カ月連続横ばい推移。トドマツは4月の減少から5月、6月は横ばいに。

・スギの在庫動向は4月の減少から5月、6月は横ばいに。ヒノキは4月の横ばいから5月、6月は増加に。トドマツは4月の減少から5月、6月は横ばいに。

(4) 製材品出荷価格動向 Weight. D. I.

品目		30/4月	5月	6月
スギ	柱角 KD10.5×3	0.0	△ 5.0	△ 5.0
	柱角 KD12×3	△ 5.6	△ 16.7	△ 16.7
	通し柱 12×6	8.3	0.0	0.0
	桁角	0.0	0.0	0.0
	母屋角	18.8	12.5	6.3
	タルキ	6.3	6.3	0.0
	間柱	11.1	0.0	0.0
	ヌキ	0.0	0.0	0.0
	平割	6.3	6.3	0.0
	ラミナ	0.0	0.0	0.0
	ヒノキ	柱角 KD10.5×3	7.1	14.3
柱角 KD12×3		14.3	0.0	0.0
土台角 10.5×4		31.3	25.0	18.8
土台角 12×4		12.5	12.5	12.5
通し柱 12×6		8.3	0.0	0.0
ラミナ		10.0	10.0	10.0
カラマツ土台角10.5×4	—	—	—	
〃 梱包仕組み板	100.0	100.0	0.0	
〃 ラミナ	100.0	0.0	0.0	
トドマツサンギ	0.0	0.0	0.0	

・スギ製材品の出荷価格動向は柱角KD10.5×3、12.0×3とも弱含み。母屋角はやや強含み。通し柱、桁角、ヌキ、ラミナは横ばい。

・ヒノキは土台角10.5が強保合。その他の品目は横ばい。

・カラマツは梱包仕組み板、ラミナとも強含み。

・トドマツサンギは横ばい推移。

モニターからのコメント

(製材品荷動)

- ・原木在庫に合わせて生産。新規受注はストップ、既存顧客への安定供給目指す。生産、即出荷で在庫やや減少（北海道）。
- ・スギ生産は丸太出材が多いため好調。ヒノキは5月の新設備本格稼働に向け調整中。出荷は顧客の決算後ということもあり引き合いは強い。5月前後も着工が多いに通し。ヒノキは相変わらず引き合いは強く新製品のヒノキ集成材も見通し良好。順調な引き合いの強さと、新設備導入に伴う既存製品ラインナップの削減のため在庫はやや減少（東北）。
- ・生産は横ばいが続く。販売好調で在庫は減少（関東）。
- ・スギ製材品の売れ行き少し回復（関東）。
- ・4月→5月→6月と生産量を上げてく予定。出荷量も増やす予定。在庫は横ばいを予定（中国）。
- ・5月以降、設備増強により生産量、出荷量ともが増加する見通し。在庫は半製品が増加する見通し（中国）。
- ・生産増産で残業あり。出荷は順調に推移している。在庫はやや増加気味（九州）。
- ・九州エリアのKD材も落ち着いてきており、バランスの良い出荷ベースになっている（九州）。

(製材品出荷価格動向)

- ・カラマツのパレット、梱包材は4～5月、ラミナは4月より値上げとなった（北海道）。
- ・トドマツサンギの値上げ浸透も、需要に応えられない可能性大（北海道）。
- ・スギKD柱角は引合い堅調。値上げはないが高く推移。4寸系に関しては依然引合いが弱い4月に入りやや回復。基本値上げは行ってないが、タルキ、平割系に関しては生産縮小のため値上げで出荷調整。スギ集成材に関しては10.5角は集成荷動きの停滞と大手ビルダーの仕入単価改定のため値下げ（東北）。
- ・スギ、ヒノキとも横ばい推移。ヒノキは不足気味（関東）。
- ・ヒノキ原木価格に応じて値上げをしたい。動きが出れば上昇すると予想。ただし柱は上昇しないかもしれない(中国)
- ・スギ、ヒノキとも10.5角を中心に値上り気味（中国）。
- ・単価の変動は少ないと思われるが、スギ12角については3m、4mとも売れ足が遅くなり下落になりそう。ヒノキも同様に12角の使用量が少ないため下落するかもしれない（中国）。
- ・ヒノキ製材品の価格は横ばい。5,000円/m³の値上を期待している（九州）。
- ・米加材高騰の影響でスギ母屋角上昇。米ヒバ高騰のためヒノキ土台角10.5が上昇（九州）。

30年4月分

製材工場の荷動き・価格先行き動向調査 3

イ. 外材

(1) 製材用原木の荷動き動向 Weight. D. I.

品目		30/4月	5月	6月
仕入動向	米マツ丸太	△ 100.0	50.0	0.0
	NZラジアータ	0.0	0.0	0.0
	北洋エゾマツ丸太	—	—	—
	北洋アカマツ丸太	—	—	—
	北洋アカマツ原板	—	—	—
消費動向	米マツ丸太	△ 50.0	50.0	0.0
	NZラジアータ	0.0	△ 50.0	△ 50.0
	北洋エゾマツ丸太	—	—	—
	北洋アカマツ丸太	—	—	—
	北洋アカマツ原板	—	—	—
在庫動向	米マツ丸太	△ 50.0	0.0	0.0
	NZラジアータ	0.0	50.0	50.0
	北洋エゾマツ丸太	—	—	—
	北洋アカマツ丸太	—	—	—
	北洋アカマツ原板	—	—	—

・米マツ丸太製材用原木の仕入・消費動向は4月の減少から5月は増加、6月は横ばいに。在庫動向は4月の減少から5月、6月は横ばいに。

・NZラジアータ丸太の仕入動向は3カ月連続横ばい推移。消費動向は4月の横ばいから5月、6月は減少に。在庫動向は4月の横ばいから5月、6月は増加に。

(2) 製材用原木等購入価格動向 Weight. D. I.

品目	30/4月	5月	6月
米マツ丸太	0.0	0.0	0.0
NZラジアータ丸太	0.0	50.0	50.0
北洋エゾマツ丸太	—	—	—
北洋アカマツ丸太	—	—	—
北洋アカマツ原板	—	—	—

・米マツ丸太の価格動向は3カ月連続横ばい推移。

・NZラジアータ丸太の価格動向は強含み。

モニターからのコメント

(原木荷動)

- ・NZラジアータ丸太は、5月、6月は不需要期となる。

(原木価格動向)

- ・FRTが急上昇。

30年4月分

製材工場の荷動き・価格先行き動向調査 4

(3) 製材品の荷動き動向 Weight. D. I.

品目		30/4月	5月	6月
生産動向	米マツ製材品	△ 50.0	50.0	0.0
	NZラジアータ製材品	0.0	△ 50.0	△ 50.0
	北洋エゾマツ製材品	—	—	—
	北洋アカマツ製材品	—	—	—
出荷動向	米マツ製材品	△ 50.0	50.0	50.0
	NZラジアータ製材品	0.0	△ 50.0	△ 50.0
	北洋エゾマツ製材品	—	—	—
	北洋アカマツ製材品	—	—	—
在庫動向	米マツ製材品	0.0	0.0	△ 50.0
	NZラジアータ製材品	0.0	50.0	50.0
	北洋エゾマツ製材品	—	—	—
	北洋アカマツ製材品	—	—	—

・米マツ製材品の生産動向は4月の減少から5月は増加、6月は横ばいに。NZラジアータ製材品は4月の横ばいから5月、6月は減少に。

・米マツ製材品の出荷動向は4月の減少から5月、6月は増加に。NZラジアータ製材品は4月の横ばいから5月、6月は横ばいに。

・米マツ製材品の在庫動向は4月、5月の横ばいから6月は減少に。NZラジアータ製材品は4月の横ばいから5月、6月は増加に。

(4) 製材品の出荷価格動向 Weight. D. I.

品目	30/4月	5月	6月
米マツ平角	0.0	0.0	0.0
米マツ正角	50.0	0.0	0.0
米マツ小割	50.0	0.0	0.0
北洋エゾマツタルキ	—	—	—
北洋アカマツタルキ	—	—	—
NZ梱包材(割板)	0.0	0.0	0.0
NZ梱包材(割角)	0.0	0.0	0.0
NZ土木用材	0.0	0.0	0.0
その他	—	—	—

・米マツ平角の出荷価格動向は3カ月連続横ばい推移。正角、小割はやや強含み。

・NZ製材品の出荷価格動向は梱包材（割板、割角）、土木用材とも3カ月連続横ばい推移。

モニターからのコメント

(製材品の荷動き)

- ・NZラジアータ丸太は、5月、6月は不需要期となる。

(製材品出荷価格動向)

- ・NZラジアータ製材品は3カ月連続横ばい推移。